
横浜地域

1. 雨水タンクの設置で節水や時短につながった（株式会社春峰園）

取組の概要

本社事務所に雨どいから取水する雨水タンクを設置。雨が1度降れば200Lの雨水タンクがすぐ満杯に。現場作業や機械の洗浄等で多くの水を使用するので、貯まった水を使用することで、節水や貯水時間の短縮につながった。



取組を始めた動機・課題

現場作業において、200Lタンクの水を満杯にしてトラックで持っていくこともしばしば。水を貯めるにも時間がかかり、節水や水道料金の削減も考えたいと思っていたところ、雨水タンクの設置がSDGsにもつながると知り、取り組むことにした。

解決に向けた具体策と成果

雨水タンクにどのくらい水が貯まるものなのか想像がつかなかったが、機械置場として広い屋根と雨どいが既にあったので、設置を決めてしまえばすぐに取り組むことができた。多大な費用や大掛かりな工事が不要で、すぐに効果が見えたので従業員の理解も早かった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



2. エコキャップ活動と廃プラゴミ袋使用（株式会社清光社）

取組の概要

弊社が清掃管理を行っているビルでの、ゴミ袋を廃プラ99%から製造している「FUROSHIKI」を採用し、今まで、分別していなかったペットボトルを3分別（ボトル、キャップ、ラベル）収集を開始した。



取組を始めた動機・課題

かながわプラごみゼロ宣言を行い、普段何気なく捨てているゴミに着目し、弊社が清掃管理しているビルでのビルオーナー、利用者に協力を求めた。

解決に向けた具体策と成果

各ゴミ置場にエコキャップ専用回収箱の設置、利用者に3分別のお願い掲示と資料を作成し、配布した。利用者も分別してくれるようになった。

該当するSDGs目標
(3つまで)



3. レモンを捨てることなく使い切る（株式会社MURONE）

取組の概要

- ・日本人が大切にしてきた「もったいない」精神。
- ・食品廃棄物のレモンの搾りかすなどを原材料にし、食器などに加工。
- ・プラスチック製食器の代替えによる脱プラに貢献する。

取組を始めた動機・課題

- ・弊社が運営する飲食店にて廃棄するレモンの絞りかすを何かに使えないかと日頃悩んでいたところ、「100%食品廃棄物から作る新素材」技術を保有するFabula様と出会い、弊社の持つ金属加工技術との合わせ技で開発を始めた。

解決に向けた具体策と成果

- ・食器に耐えうる強度を確保するのに試行錯誤を繰り返した。その結果、レモン以外にコーヒー抽出かすや、セロリ、酒かすなどの材料でも成功。
- ・今後は新たな材料にチャレンジするとともに、大型化や耐久性UPに向け誠意開発を進め、商品化につなげたい。



該当するSDGs目標
(3つまで)



4. ファンケル 神奈川SDGs講座（株式会社ファンケル）

取組の概要

神奈川県内の子どもたちを対象に、単発講座・長期講座・夏休み講座の3つの講座を実施。商品の共同開発やワークショップなどの体験を通じて、SDGsの大切さを考えるキッカケを提供している。講師は当社社員を中心にこの活動に賛同した企業・団体が務める。■対象＝小学生、中学生、高校生



取組を始めた動機・課題

コロナ禍をきっかけに、地域社会との繋がり方の見直しを実施。2021年から「地域の子どもたちへ、地元の企業としてもっと何かできることはないだろうか。」と考え、神奈川県内の子どもたちへ「ファンケル 神奈川SDGs講座」を開始。世界的な重要テーマであるSDGsの推進および若年層への啓発活動を行っている。

解決に向けた具体策と成果

2021年度は、単発講座12回、長期講座9回、夏休み講座1回実施し、約2,250名の子どもたちへ講座を実施することができた。プラスチック問題や、食品ロスなどの講義を通し、「身近なことから自分も取り組めると思った」「未来のために、今自分の行動を変えることが大切だと感じた。」などの感想があがっている。

該当するSDGs目標
(3つまで)



5. 地域や従業員、地球環境に配慮し自然体で取り組んできた事が、まさにSDGsそのものであった。（ニッパ株式会社）

取組の概要

時代の変化に順応するため、地球環境や地域への貢献、働く従業員に配慮した多くの取組の結果、地域のイノベーション企業のモデルとして様々な方面から注目され、地域経済の発展に貢献。社内的にも、女性や障害者、高齢者など誰もが働きやすいノーマライゼーション環境を永きにわたり実現。



取組を始めた動機・課題

60年以上にわたり地域に根ざし支えられてきた企業として、「社員に長く働いてもらうには？」「時代の移り変わりの中で求められるニーズに対応するには？」を常に考え、ISO認証取得や働き方改革をはじめ様々な取組に挑戦する必要性を感じていた。

解決に向けた具体策と成果

生産に必要な製造仕様書（図面）をタブレット使用によりペーパーレス化。紙の使用量を20%削減、処分量を10%削減。さらに作業工程の見える化により異なる部門間での共有を可能に。社内外での様々な研修や多能職による柔軟な働き方、独自の評価制度などを採り入れ常に変化を続けてきた。

該当するSDGs目標
(3つまで)



6. 地域課題を食で解決！東山田シェアご飯（株式会社スリーハイ）

取組の概要

当地域は横浜市都筑区に準工業地域です。工場から出る廃棄食材、隣接する農家の規格外の野菜、寄付食材などを使って「生きづらさ」を抱えている方々にお弁当を提供しています。お弁当は住民の方々が作っており、その名も「東山田シェアご飯」です。当社の工場カフェ「DEN」のキッチンで使って展開しています。



取組を始めた動機・課題

青葉区でシェアご飯を既に取り組んでいる方の話を聞き、都筑区でも展開できないかと思い、スタートさせました。何らかの事情により生活がお困りの方を対象にしています。みえづらい課題のため、地域でピラ配りをしたりするなど継続的な活動が重要だと思っています。

解決に向けた具体策と成果

地域全体の取り組みとするため、ボランティアではなく関わる皆さんが何かしらのベネフィットが得られる仕組みにしました。地元小学校ともコラボレーションしており少しずつ認知されるようになりました。まさに東山田のエコシステムといえます。一企業だけでなく地域全体でSDGsに取り組んでいるのが特徴です。

該当するSDGs目標

(3つまで)



7. イベントでSDGs（(株)ペッププランニング）

取組の概要

イベントの現場において、ゴミの大量廃棄や食材の無駄使い、食器類の使い捨て、電源の大量消費、水の無駄使い、などを感じている。ゴミの分別や配電配水の効率化によりSDGs対応が経費を抑える役割も持つことを社員が常に意識することを心掛けている。



取組を始めた動機・課題

多くの参加者が集うイベント会場において、皆が**同じ目的意識を持つ**にはどうしたらできるのかを考えたのがきっかけである。以後、世の中の流れがこちらに傾いてきており実行ステップが上がることを期待する。

解決に向けた具体策と成果

イベント運営マニュアルにゴミ分別や減量対策、節電節水などを意識的に記入するようになった。現場でもゴミステーションを設置して参加者が分別回収に協力してくれるようになった。次は脱炭素など使う側の問題意識改革かもしれない。

該当するSDGs目標
(3つまで)



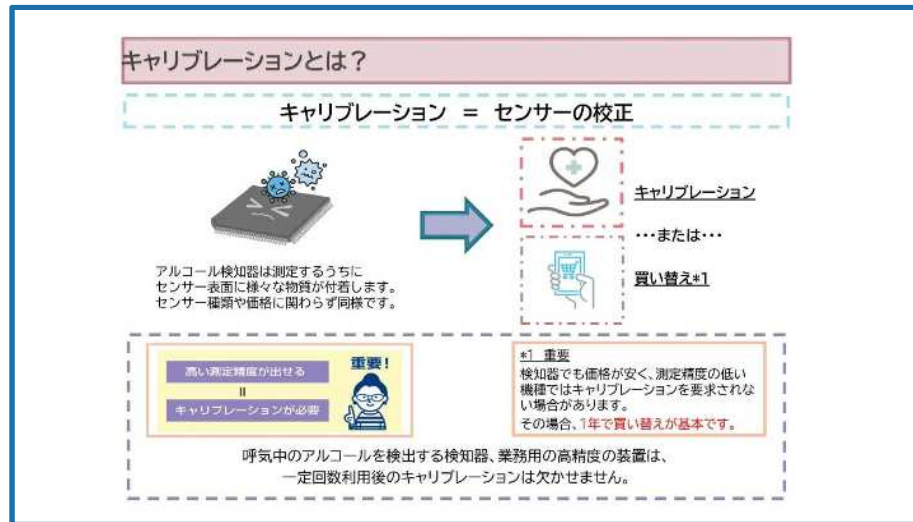
8. アルコール検知器で飲酒運転撲滅とSDGsを目指す！(有限会社ドリームチーム)

取組の概要

あなたの悩みを世界の知恵で解決する。を合言葉にお悩み解決商品とサービスを提供。交通安全・飲酒運転事故撲滅に向けアルコール検知器拡販及び飲酒運転管理サポートを行う。取り扱う検知器は清掃・整備・校正しリユースに努めている。

取組を始めた動機・課題

一般的にアルコール検知器は使用を続けるとセンサーの校正が必要。携帯型では現状、校正せず1年程で使い捨てとする検知器が多く、電池はまだ使えるにも関わらず使い捨て+買い替えが発生している。



解決に向けた具体策と成果

メンテナンスとリユースのサービスを導入。センサー校正により高い測定精度を維持し、購入後長期使用できる仕組みを構築。リユースにより、アルコール検知器を必要としている企業への検知器提供に繋がり、高精度検知器を用いた飲酒運転事故撲滅とごみの廃棄削減を目指す。

該当するSDGs目標
(3つまで)



9. リユーストナーカートリッジで、誰でもできる脱炭素・SDGs活動（原貿易株式会社）

取組の概要

レーザープリンター用のトナーカートリッジのリユースを推進し、使用してもらえる企業・団体を募集している。CO2削減・プラ削減・コスト削減が可能なリユーストナーカートリッジで、誰でも「できることから」脱炭素・SDGs活動に取り組めることを広く発信し、企業のSDGs活動に貢献している。

取組を始めた動機・課題


当社は、リユーストナーカートリッジ事業においてCO2やプラスチック削減を通じSDGs活動をいち早く行ってきた。リユーストナーカートリッジがSDGs活動に役立つことを広く知ってもらい、多くの企業・団体等に利用していただきたいと考えた。


解決に向けた具体策と成果


リユーストナーカートリッジについての情報発信に注力している（リーフレットの作成配布、講演会での発表を通じた神奈川県や横浜市との連携）。脱炭素やSDGsに取り組む企業として当社の評価が高まり、新規ビジネスの機会創出にもつながった。他の企業・団体のSDGs活動にも貢献している。

誰でもできる脱炭素・SDGsの取り組み
～プラ削減にも役立つリユーストナーカートリッジの活用～
私たちは、印刷で脱炭素とプラ削減を目指しています

リユーストナーカートリッジは、使用済みの純正トナーカートリッジを回収し再利用した製品です。

 リユーストナーカートリッジを1本使用すると、新たにカートリッジを製造するのに比べ、CO2排出量を少なく見積っても3.4kg(*)削減できます。
(※) A3モノクロー体型の場合

 トナーカートリッジは、必要な部材だけを交換し、トナーを充填することで生まれ変わります。新たにカートリッジを製造するのに比べ、プラスチック使用量が少なく、使うだけでプラ削減につながります。



しかも、リユース品の価格は純正品の約半分。
AICB調べ

にも有効！

該当するSDGs目標
(3つまで)



10. 横浜発！「濱帯（はまおび）」プロジェクト（株式会社ワンスレッド）

取組の概要

開港以来スカーフやハンカチの産地として培われた横浜の縫製・染技術を活用し、綿100%で1枚布の「濱帯（はまおび）」を作ります。さらに、1枚布を使ったおんぶや抱っこ、防災、生活の知恵などを共有するコミュニティを開催し、地域間交流や多世代交流の場を設け、地域と人の活性化を目指します。



取組を始めた動機・課題

共働きが当たり前となり、夫婦共に家事育児をする時代。地域で子育てをサポートするきっかけとして、多世代コミュニティの接点として、昔ながらの「1枚布」に着目。様々な用途があり使い切ることができる1枚布を通じ、男性の家事育児推進と地域産業活用、地域交流を深める取組をスタートします。

解決に向けた具体策と成果

濱帯は生地のカットから縫製まで横浜市内で行います。パッケージ等の軽作業は地域活動支援センターに依頼し、地域社会での共生を目指します。また市内の子育て支援団体等と連携し、使い方講座や親子で参加できるイベントを開催。情報交換や悩み相談ができ、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

該当するSDGs目標
(3つまで)



11. 化学物質を使用しない清掃作業（株式会社 ボイス）

取組の概要

弊社は、日常清掃作業に洗剤を極力使用せず、自社で購入した生成装置によって作った、ナノバブルを充填させたアルカリ電解水を用い、「化学物質の排出量を減らす清掃業務」にとりこんでいます。



清掃前

清掃後

（洗剤無でここまで綺麗になります）

取組を始めた動機・課題

- ① すぎが不要なので、従業員の生産性向上、作業負担軽減。
- ② 洗剤を使用しないので、化学物質を排出しない管理の実現。従業員の安全・安心。
- ③ 自社生成して洗剤コスト削減。

解決に向けた具体策と成果

実例の紹介、使用方法（希釈方法等）の指導、メリットの教育を継続的に実施し、現在20L容器で年間1500缶使用しています。理論値ですが、弊社の基準的な20L洗剤換算で、200缶程度削減できました。

該当するSDGs目標
(3つまで)



12. 検索エンジン「ECOSIA」を使う(株)日本コンピュータコンサルタント)

取組の概要

日頃パソコンやスマホで使用している検索エンジンを「ECOSIA」(エコシア: <https://www.ecosia.org/>)に変更する取組みを社内展開しています。ECOSIAは収益源である広告収入の80%を非営利団体WWF(世界自然保護基金)に寄付しており、日常業務で検索を行うだけで、自然保護に寄与する活動になります

Web検索45回 = 1本植樹



取組を始めた動機・課題

ECOSIAで約45回検索するごとに1本の木が受けられ、これまでに1億本以上の植樹が実行されているとのことで、弊社はITサービス業で日常的にPCを利用したWeb検索を行うため業務利用頻度も高く、検索エンジンとしての性能や安全性も問題ないため採用。ただ、顧客先PC使用などで制限のある社員などには強制はできません

解決に向けた具体策と成果

ブラウザの設定で既定の検索エンジンをECOSIAに変える、もしくは拡張機能を使用すれば、アドレスバーを使った検索や既定ブラウザにECOSIAを設定できます。ECOSIAのスマホアプリもあり、活用可能です。まずは管理部門で運用し、取組みを社員に紹介することで、社員の自発的な自然保護への関心の和が広がります

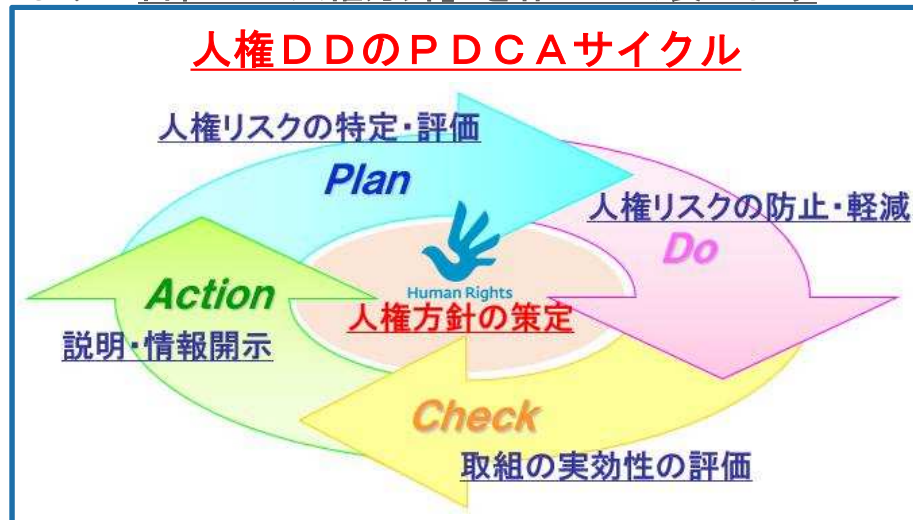
該当するSDGs目標
(3つまで)



13. 人権デュー・ディリジェンスの実施（株）日本コンピュータコンサルタント

取組の概要

日本政府や国連が推奨する「ビジネスと人権に関する指導原則（以下、指導原則と呼ぶ）」を支持し、ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の実現に向けて、「ビジネスと人権」に関する理解促進と意識向上、人権尊重を促進する仕組みの整備と救済メカニズムの整備および改善を行う。
まずは自社の「人権方針」を作って公表しよう！



取組を始めた動機・課題

自社内でのハラスメントを防ぐルール、相談体制の整備を行うなかで、安心して働ける職場環境作りのためには、もう少し大きな視野での人権尊重に関する方針の策定や人権デュー・ディリジェンス（人権DD：人権リスクを特定・分析・評価して適切な対策を策定・実行するプロセス）の実施が必要ではないかと考えた

解決に向けた具体策と成果

「指導原則」に基づき、以下の企業方針と手続きを規定することで人権尊重の内外への周知を行う。

1. 人権方針の策定（↓自社HPでの公表）まずはコレ！
<https://www.n-c-c.co.jp/wp-content/uploads/HR.pdf>
2. 人権DDの実施（リスクの特定・分析・評価）
3. 救済メカニズムの構築（是正処置・教育）

該当するSDGs目標
（3つまで）



14. 人材紹介で経済成長と途上国の支援を！（日本ミャンマー支援機構株式会社）

取組の概要

人材不足の中小企業に、日本へ出稼ぎに来るミャンマー人を紹介している。

日本の地域の発展と経済成長を促し、ミャンマーでの貧困削減や後発開発途上国への支援をしている。



取組を始めた動機・課題

社長がミャンマーから難民として日本に来日してから、日本に出稼ぎを希望するミャンマー人から多く相談を受け、株式会社として取組を始めた。

解決に向けた具体策と成果

人手不足の地方の中小企業へミャンマー人を紹介し、日本の経済成長を促した。また、ミャンマー人の雇用創出機会を増やし、貧困削減や後発開発途上国への支援を行った。会社を創設してから10年で約140人のミャンマー人に就職支援を行い、その周りの1400人のミャンマー人の経済的豊かさの発展に貢献した。

該当するSDGs目標



15. 女性のライフワークバランスとスキルアップの実現！（株式会社TIARE）

取組の概要

女性が長く働けるようスキルアップ計画や研修を実施。当社が掲げている【女性の自立】をテーマに目標設定シートや社内研修動画を配信し、1人1人が自分のタイミングで学べる環境を徹底的に構築していきました。また社内会議でスキルアップの取り組みの発表をし、みんなで共有することにより、全員でサポートができるよう環境づくりにも配慮しています。



取組を始めた動機・課題

代表自身が出産・社会復帰したときに子育てをしながらのスキルアップの困難を経験しました。

解決に向けた具体策と成果

成長期の若い従業員や子育てをしながらもスキルアップしたい従業員はスキルアップ目標。

子育てや介護に時間を使う従業員はサポートが目標と個人のワークバランスを元にスキルアップを実現できている。実際に時短社員雇用で時間の確保とマネージャー・店長は子育て中のママです。

該当するSDGs目標
(3つまで)



16. 循環ぷらっと（株式会社BPLab）

取組の概要

循環ぷらっと

繊維製品回収BOX設置に加え、そのスペース化でぷらっと参加を促進するイベントプランです。その実施効果、取組み易さが皆さんからの評価につながっております。



取組を始めた動機・課題

繊維製品の循環では回収を進める必要がありますが、単に回収ボックスを置くだけでは難しいという課題があります。この活動が何になるのか？ 回収したものが何に再生されるのか？ “見える化”してゆくことが大切と感じたのが、これを始めた動機です。

解決に向けた具体策と成果

22年11月、イオンモール倉敷様で開催。また繊維再生素材で作るペンケースなどのワークショップも同時に行う。結果、参加者から関心を持っていただき、1週間で600キロという回収実績となる。このイベントは月末まで開催で、2トン程度が最終実績になる予定。回収や取組み理解が進んだ。

該当するSDGs目標
(3つまで)



17. 神奈川県版SDGsボードゲームを活用したワークショップ (合同会社Magical Grow)

取組の概要

SDGsに取り組んでいる企業・団体・自治体の実際の実践事例をもとに、神奈川県版SDGsボードゲームを制作した。中学校・高校の探究の授業や、企業・商工会議所・法人会等でワークショップを実施している。コロナ禍でも対応できるよう、オンライン版SDGsボードゲーム（全国版）も活用している。



取組を始めた動機・課題

企業や自治体の皆さまから、SDGsに取り組みたいが、何から始めたら良いのか分からないという課題がある。また、学校でも、探究学習授業の中で地元の具体的な活動事例を知りたいニーズがあり、神奈川県内で取り組まれているSDGs実践事例を伝えたいと考えた。

解決に向けた具体策と成果

ボードゲームで神奈川県内の実践事例が学べ、受講後は、自分達に取り組む一歩が見出せたとの意見が多く聞かれた。受講した学校からは、地元でも知らなかった多数の事例があり、より地域活動に目を向け、参画する行動に繋がった。事例協力企業と学校のコラボレーションも生まれた。

該当するSDGs目標



18. 海岸フィールドワーク & 「海ごみ」を考えるワークショップ (合同会社Magical Grow)

取組の概要

「海のごみ」はどこから運ばれてくるのか、綺麗な砂浜の中はどのような「ごみ」が含まれているのか、海岸フィールドワークを通し、現場で学ぶ。更に、仕事と暮らしの2つの観点から「海ごみ」を考えるゲーム体験を行う。目で見えた事実から行動に繋げる体験型ワークショップで実践力を身につける。



取組を始めた動機・課題

海岸清掃活動は盛んに行われているが、「ごみ」を生み出さない社会を目指さなければ「海ごみ」は無くならない。一見綺麗に見える海岸にどのような「海ごみ」があるのか、採取体験をすることで深刻な状況を知る。自身の行動が環境にどのような影響を及ぼすか、ゲーム体験を通じて体得し、行動の変化に繋がりたい

解決に向けた具体策と成果

街から川、川から海に清掃活動を実施すると「ごみ」の特性が理解できる。地元NPO団体と協力し、フィールドワークを充実させ、参加者の知識、事実認識効果を上げた。参加した小学生も砂の中に含まれているマイクロプラスチックの量に驚き、自分が行動することで周りを巻き込みたいと理解を深めていた。

該当するSDGs目標



19. 学生食品ロスブランド「ユキハナ」 produce by 特定非営利活動法人フォーエヴァーグリーン

取組の概要

横浜市の老舗豆腐メーカーにて、食品販売に至らなかったおからを、法政大学の学生と商品化に挑戦。2年かけて、2022年8月より卸販売を開始。伊勢丹さんと商談中、地方百貨店様への納品が決まりました。食卓から世界を救う活動を展開しています。

ユキハナ 第一弾商品「鶏おから揚げ」



取組を始めた動機・課題

(特活)法人フォーエヴァーグリーンと豆腐メーカーで数年来商品開発に取り組んでいたところ、「食品ロスの勉強がしたい」と、ホームページを見た学生より連絡がありプロジェクト化。CO2を削減し温暖化防止に挑戦中。

解決に向けた具体策と成果

具体策：シンプルに売上を伸ばすこと。普通の企業と同様にマーケティングに力を入れること。商工会議所などに参加し、展示会などへの出展も検討中。

成果：学生の営業メールに+αして監督役としてNPOも参加し、実際の注文を獲得した点

該当するSDGs目標

(3つまで)



20. ウォーキング清掃（株式会社コア・エレクトロニックシステム）

取組の概要

従業員の健康増進を兼ね会社周辺道路をウォーキングしながら落ちているゴミを分別して拾うようにしました。



取組を始めた動機・課題

健康増進の為に毎年イベントを行ってきたなかで、地域貢献や環境（プラごみ海洋流出の上流阻止など）への取り組みとして始めました。
活動中の安全面確保とルート設定に悩みました。

解決に向けた具体策と成果

事前に周辺道路を歩いてみてルートを設定しました。
安全面を考慮して参加者にはビブスを配布し目立つようにしました。
周辺住民の方から感謝の言葉を掛けられる事もありました。

該当するSDGs目標
(3つまで)



21. PPA活用で太陽光発電電力を使う！（株式会社Jバイオフードリサイクル）

取組の概要

PPA（Power Purchase Agreement）モデルを採用し、自社食品リサイクル工場の屋根に、2020年2月より太陽光パネルを設置した。

発電した再エネ電力はPPA契約事業者から安価に購入が可能。発電した電力は全量工場内で利用した。20～21年度の総発電量は72,000kWhであった。



取組を始めた動機・課題

食品リサイクル事業以外にも脱炭素化における環境パフォーマンス向上をしたいと考えていたが、太陽光パネル設置・設備維持に関わるコストにおいて懸念点が多かったため、導入を検討した。

解決に向けた具体策と成果

PPAモデル採用により、PPA契約事業者への設備設置場所提供のみで、設備投資・メンテナンス不要で太陽光発電システムの導入が可能となった。

工場内使用電力のクリーンエネルギーの割合が増加し、22年度11月には神奈川県エネルギー地産地消推進事業者の認証内定をいただいた。

該当するSDGs目標
(3つまで)



22. 工場見学者の受入体制を確立！（株式会社Jバイオフードリサイクル）

取組の概要

工場内見学ルート確保・プレゼンルーム建設・見学対応知識の社内共有により、見学者受け入れ体制を確立した。

リサイクルに携わる方々をはじめ、教育機関や地方自治体、外国政府機関関係者等多くの方々が来訪し、操業5年目で累積約4,000人の見学者を受け入れた



取組を始めた動機・課題

顧客への情報提供や、環境教育として食品リサイクルに関する知識・技能提供のために幅広く見学者を受け入れていたが、従来の見学では、別施設会議室までの移動に時間を有し、上記発信を効率的に行えないという課題があった。

解決に向けた具体策と成果

敷地内にプレゼンルームを建設することで、充実した工場見学の提供が可能になった。

さらに、プレゼンルームのバリアフリー化や、Zoomライセンス取得・三軸ジンバル導入によってリモート見学も可能となり、より多くの方々の受け入れを実現できた。

該当するSDGs目標
(3つまで)

